

# 語学教材としての韓国映画とその利用例

波田野 節 子

## 0. はじめに

映画を語学教材として用いる試みは英・仏語では以前からおこなわれており、映画を教材にしたフランス語の大学用教科書は、この10年間で約30冊にのぼるという。(白井1997)新潟大学で非常勤講師として教養フランス語を担当しながら、筆者は語学教材としての映画の効用に注目し、中級の授業の一部をさいて何度かこころみたことがある。

5年前から県立新潟女子短期大学で専攻語学としての韓国語(当校のカリキュラムにおける呼称。以下これに従う)を教えるようになったので、フランス語での経験をいかして韓国語映画を教材にしてみたいと考えていたが、昨年度(1997年度)それまで1コマしか担当していなかった上級クラスをもう1科目担当することになったのを機会に、映画教材の授業をおこなうことにした。以下は、専攻語学としての韓国語の授業に映画を教材として用いたこころみの報告である。

なお1997年現在、日本で韓国語学科か専攻あるいはコースを設けている大学は、国立では東京外国語大学、大阪外国語大学、富山大学の3校、私立では神田外語大学、天理大学、二松学舎大学、九州国際大学、熊本学園大学など、そして公立大学としては県立新潟女子短期大学と県立広島女子短期大学の2校である。(野間1997)第2外国語としての韓国語はさいきん多くの大学で教授されるようになり、新潟大学でも1993年から開講している。とはいえ日本の大学における韓国語教育はまだ歴史が浅く、教授法も発展途上といえよう。教科書の種類も少なく、映画を教材に用いた教科書は筆者の知る限りでは存在していないようである。

## 1. 対象学生

本稿で報告する授業例の対象者は県立新潟女子短期大学の国際教養学科韓国語コース2年生である。当該学科は1学年定員100名で、韓国・ロシア・中国の専攻語学によって約33名ずつの3コースに分かれている。1997年度韓国語コース2年生は31名であった。1年次は基礎韓国語、2年次は上級韓国語をそれぞれ週6コマ必修科目としており、1年次選択科目として2週間ほどの実地研修がある。韓国語コースではほとんどの学生が参加しており、そのほかに春休みを利用して旅行したり短期留学する学生もいるので、2年次にな

るとかなりの語学水準に達した学生も出てくる。

なお2年次学生の語学授業6コマの内訳は、韓国語作文、ネイティブによる会話2コマ、新聞記事などをテキストとする講読、筆者がおこなっている小説翻訳、そしてこの映画教材の授業である。

## 2. 設 備

ビデオ・プロジェクターとディスプレイ付2人掛機の備わったLL教室を使用した。

## 3. 映画を教材とすることで期待される効果

映画を教材とするメリットとしては、学習意欲が向上する、会話が自然である、発音がわかりやすい、異文化を理解させる上で効用がある、等の点があげられる。

### 3-1 モチベーション

よい映画はその魅力で学習者を惹きつけ、登場人物たちが話している言葉を理解したい、自分でも話してみたいという意欲を喚起する。すなわち学習のモチベーションとしての効果が期待される。こうしたモチベーションはどんなによくできた語学教材ビデオもかなわないものである。本授業では教材にするシーンは、できるだけ学生自身に選ばせるようにした。彼らにとってもっとも感動的で印象の強かった部分を教材にすることによって、登場人物たちが話している言葉を原語で理解したいという意欲をいだかせるためである。

### 3-2 自然な会話

会話の背後には常にそれなりのシチュエーションがある。それを人工的に設定する教材用ビデオではどうしても会話に不自然さがつきまとうが、映画におけるシチュエーションと演技力のある俳優が話す台詞は、当然のことながらずっと自然である。

### 3-3 美しくわかりやすい発音

俳優は役柄によって標準を話すこともあるし俗語や方言で話すこともある。俳優によって美しく発音された台詞は聴きとりやすいし、たとえ役柄上話し方が粗野であったり訛りが強かったりしても、ドキュメンタリーのような自然状態の言葉と違ってわかりやすい発音になっている。

### 3-4 異文化理解

アジアの韓国だけでなく、欧米以外の国々に関しては同じことが言えると思うが、一般的に日本の学生（だけではないと思うが）は欧米の生活文化習慣についてはさまざまなメディアを通して大量の知識をもっている反面、その他の地域についてはあまり知らない。たとえば隣国である韓国では箸と匙を使って飯を主食とした食事をする、というような基本的なことさえ知らないことが多い。だが、その国の人々の生活様式がわからなければ、そこで暮らす人々の思考方式もわからず、したがって言語もまた真に理解することはむず

かしいであろう。

学生たちは映画の映像とストーリーを通してさまざまなことを学ぶことになる。登場人物たちの何気ない動作によって生活習慣に親しみ、彼らのとる言動から漠然とながらその国の平均的な思考方式を感じとる。映像の背後にはその国の伝統と文化と長い歴史がひそんでいる。予備知識をもたない学生たちは、ときに映像のまえでとまどい、感動が期待されている箇所ですらけ、あるいは違和感をもったりする。だが、そうしたくい違いを大切にし、反発するより先にまず受け入れた上で何故と問いかける姿勢こそが、異文化を理解する第一歩なのである。映画は異文化をごく自然に受け入れさせる恰好のメディアである。異文化理解という効果は、映画を教材にすることによって得られる大きなメリットだと言える。

#### 4. 目 的

本授業の目的は、主として会話理解力の強化とそのための聴解力養成においた。

だがその他に、上記のような点を考慮して異文化理解ということも目的におき、筆者が担当している2年次の必修科目「朝鮮事情（文化）」をこの授業とリンクさせて、相乗効果をめざすことにした。

#### 5. 教 材

語学教材としてふさわしい映画とはどんなものか。劇場映画を教材とする大学用中級フランス語のテキストを編集したある教師は、教材に適した映画として、1) 内容がある作品、2) いろいろなシーンがあってストーリーが単調でない作品、3) 上映時間100分前後の作品、4) 俗語のすくない作品、5) 台詞の多い作品、6) シナリオのある作品、という条件をあげている。(大木1990) しかし、これは教養フランス語中級クラスを対象に通年で1本の映画を教材とした場合であって、専門外国語の場合にはかならずしも当てはまらない。

本授業では、複数の映画からそれぞれいくつかの部分をとって教材にすることにした。多くの映画を見ることによって、多様な地域・階層の言葉に接することができ、また文化への多面的なアプローチが期待できるからである。だがもう一つの理由として、1年間おなじ映画を見つづけるのでは学生も教師も飽きてしまうのではないかと恐れたこともある。

俗語と方言は専門外国語として学ぶ以上むしろ積極的にとり入れるべきだと思う。だが、すべての台詞がそのようなものは避けるべきであろう。

シナリオは、韓国映画振興社が編んだ「韓国シナリオ全集」や作家別のシナリオ集などいくつか刊行されている。しかし映画の中で実際に話される台詞がシナリオとは違ってい

ることが頻繁にあり、はなはだしきはストーリーまで違っていることもあって、少なからず驚いた。日本ではどうなのだろうか。もちろん教材にする部分はあらかじめ音をひろってテキストを作成しておいた。

本授業では原則として、シナリオの他に字幕付・なし両方のビデオが入手できたものの中から教材をえらんだので、ビデオの入手が容易かどうかという点は教材選びにかかわる大きな問題であった。フランス語の場合、大学用教科書で教材にされている映画はすべて日本語字幕付ビデオが市販されているが、逆に字幕なしビデオは現地が遠いため購入がむずかしく、また購入しても日本とビデオ方式が違うためコンバートしないと使えない。それで、字幕付ビデオの字幕の部分をボール紙などでおおって授業するよう、わざわざ指示している教科書が多い。(最近は仏語字幕付フランス映画ビデオが教材出版社から出ており、学習環境は急速に整っている)

その点、韓国映画ビデオは韓国に行って直接購入することも比較的簡単うえ、ビデオ方式が同じなのでコンバートは不要である。大きな都市には日本に住む韓国人を対象にした映画ビデオ販売店もあるので字幕なしビデオの入手は容易である。しかし問題は字幕の付けられた映画の種類が少ないということであった。ビデオレンタルショップに行けば一目瞭然であるが、日本に紹介されている韓国映画の数が極めて少ないのである。NHKのアジア映画劇場などで放映される際にダビングするなどしてできるだけ集めたけれども、たいして多くは集められなかった。

ところで、先に引いた教養フランス語における教材映画えらびの条件のうち〈内容がある作品〉という項目は、専攻語学の場合でも動かしがたい条件である。見るものを惹きつけるよい作品でなければ学習のモチベーションは生まれようがないし、授業中に繰り返しかつ長時間見ても飽きがこないためには、作品の水準がある程度に達している必要がある。また、たとえ芸術的にはよい作品であっても、内容があまりに暗かったり社会告発が強すぎると、学習者が途中で嫌気のさすおそれがあって語学教材にはふさわしくない。語学を楽しく学ぶための教材という条件をみたす韓国映画をさがすのは、なかなか難しい作業であった。

以上のような限られた条件の下で入手できたものの中から、1997年度の教材として、「겨울 나그네 (冬の旅人)」「將軍의 아들 (將軍の息子)」「洪吉童<sup>ホンギルドン</sup>」「西便制<sup>ソピョンジエ</sup>」の4本の映画を選んだ。

## 6. 利用例

それでは、教材として用いた映画と授業方法について、以下で具体的に述べることにする。

## 6-1 「冬の旅人」

### 6-1-1 作品

1986年制作 / 監督：<sup>クマクチギョン</sup>郭志均 / 出演：<sup>アンソンギ</sup>安聖基 <sup>イミスク</sup>李美淑 <sup>カンソグ</sup>康石雨

原作・脚色：<sup>チュニノ</sup>崔仁浩 シナリオ：「崔仁浩シナリオ全集3」（図書出版宇石1992）

流行作家崔仁浩が自分の新聞小説を原作として脚色したシナリオをもとに、郭志均がはじめて監督した作品である。

医学部の純情な学生ミヌと音楽を学ぶタヘとのキャンパスを背景とした美しい初恋、それを見守る不良っぽい先輩ヒョンテとの三角関係。ミヌは家庭の悲劇のために転落し、結局タヘとヒョンテが結ばれる。筋立てが波瀾万丈で少々荒唐無稽なところもあったが学生たちの評判はよかった。

### 6-1-2 用いた部分

字幕付映画を見せたあと学生たちから希望をとって、下記の4つのくだりを選び出した。

- ミヌとタヘが別荘で一夜を過ごすくだり
- 一年ぶりにミヌがタヘの前に姿をあらわしてまた姿を消すくだり
- 出所後のミヌが基地の女ウニョンを訪ね自分の子が生まれていたことを知るくだり
- タヘがヒョンテとともにミヌを訪ねて最後の会話を交わすくだり

### 6-1-3 授業方法

下準備として、教材にするシーンの音声テープを作っておく。

授業手順は以下の通りである。音声テープを流すときも学生に指名して答えさせるときも、基本的にヘッドフォンを使用した。

- ① 字幕なしビデオでこれから学ぶくだり全体を映像で見せる。
- ② これから学ぶシーンを映像で見せる。
- ③ シーンの台詞の音声を通して流す。
- ④ 台詞の聴きとり作業にはいる。長すぎる台詞は2つか3つに切る。聴きとり作業は次のような手順でおこなう。

- ・ 音をとる：音声を数回流したあと学生を指名し、聴きとれた音をそのまま発音させる。
- ・ 意味をとる：「누구세요?」（誰?）とか「언제 왔어요?」（いつ来たの?）など、きまり文句やみじかい言葉ならすぐにわかるが、台詞が長くて内容が難しいときには、音がとれていても意味とはすぐに結びつかない。そんなときは台詞をくりかえし発音しながら、固有名詞、語尾、接尾辞、人称代名詞、簡単な単語など、わかる部分から板書していき、わからない部分の音を特定していく。

例： 그리고 .....을.....고 이렇게 .....에 .....했습니다.

（そして .....を.....て こうして.....に .....しました）

그리고 .....을.....고 이렇게 지구에 도착했습니다.

(そして .....を.....て こうして 地球に 到着しました)

그리고 방금 .....을.....고 이렇게 지구에 도착했습니다.

(そして さっき.....を.....て こうして 地球に 到着しました)

- 学生が知らない単語を台詞の空白部分にはめ込んでやり、関連語を推測させる。

例: 그리고 방금 우주복을 ...고 이렇게 지구에 도착했습니다.

(そして さっき 宇宙服を.....て こうして 地球に 到着しました)

그리고 방금 우주복을 입고 이렇게 지구에 도착했습니다.

(そして さっき 宇宙服을 着て こうして 地球に 到着しました)

- 前後の脈絡によって登場人物が言っている内容を学生に推測させ、それが音声と結びつくよう誘導する。推測をうながすために、必要に応じて字幕なし映像を見せてもよい。

- ⑤ このようにしてひとつのシーンの台詞を聴きとり終えたら、シーン全体の音声を聴きなおして確認し、つぎに映像で見て再確認してから、つぎのシーンにすすむ。(ここで②に戻る)

- ⑥ ひとつのくだりが終わったら全体をとおして映像で見てから、つぎのくだりにすすむ。(ここで①に戻る)

私たちの会話は、相手の発した音声を通して意味を受けとり、それに対して自分が伝えたい意味を、音声で相手に対して発することで成り立っている。だがこのやりとりはつねに完璧な形で成立しているわけではない。たとえば相手の声がよく聴きとれなかった場合、前後の脈絡から意味を推測し、その意味をもとにして逆に音をわりだし、きっとこう言ったに違いないと勝手に納得しながら会話を成り立たせてしまうこともある。あるいは音は聴きとれてもその意味がわからないときなど、聞き返すことで会話の流れを中断せず、前後の脈絡からその音の意味を推測しながら会話をつづけ、後続の会話に支障がなければそのままにしてしまうこともある。それどころか後続の会話に問題がないことで自分の推測が正しいことを確認すると、その音を意味と結びつけて記憶することで自分の語彙をふやしたりする。このような会話の構造を聴解力養成の学習方法として応用したのである。

一度字幕付映画を見たうえで教材にする部分を自分たちで選んだ学生たちは、ストーリーは知っており、字幕の内容も漠然と覚えているので、そのシーンで登場人物がどんな立場におかれどんな気持ちでいるかはわかっている。そんな彼らに、聴きとれた音とわかっている意味とを総動員して会話の内容を推測しながら音をとる練習をさせるのである。

このやり方だと音声以外の要素にたよりすぎて聴解力養成の目的にあわないという意見もあるかも知れない。だが会話というのは常にあるシチュエーションのもとでおこなわれるものである。内容がまったくわからない音声テープを突然聴きとらせる方法ももちろん

聴解力養成には有効であろうが、本授業では、むしろ映画のシーンを睨に描き内容と結びつけながら音声を聴きとるというやり方によって、会話における実践力を養成することをめざした。

このような方式で約3ヶ月かけて上記の4つのくだりを完了した。学生たちはどんどん指名されるうえ、ヘッドフォンを通して自分の答える声が他の学生にはっきり聞こえるため、緊張して授業に集中した。予習として音声テープを前もって聴いておくこと、復習として音声テープを聴き直し、聴きとった台詞を清書しておくことを義務づけた。

#### 6-1-4 その他

映画の内容に関しては、現代のキャンパス・ラブストーリーなので理解はむずかしくなかったようだが、たとえばアメリカ軍基地周辺にできる歓楽街「基地村」の問題、娼婦ユニョンの「招請状」という言葉が意味するもの（米軍人と結婚して相手から「招請状」をもらって渡米し、市民権を得てから自分の子供に「招請状」を出して引き取る）、刑務所から刑期をおえて出てきた者に豆腐を食べさせる習慣など、説明を要した点がいくつかあった。

アトラクションとしてこの映画の主題歌である歌曲「菩提樹」を訳読鑑賞した。

#### 6-2 「将軍の息子」

##### 6-2-1 作品

1990年制作 / 監督：<sup>イムクオンテク</sup>林権沢 / 出演：<sup>パクサンミン</sup>朴尚民

脚本：<sup>キムヨソク</sup>金容沃 シナリオ：「<sup>キムドクハン</sup>시나리오 将軍의 아들」(통나무1990)

金斗漢という実在人物をモデルにした、植民地時代の京城を舞台とするやくざ映画だが、一流監督である林権沢の作だけあって上質な娯楽映画に仕上がっている。アクション場面が多く台詞が少ないので語学教材として必ずしも最適ではないが、背景となっている植民地時代の<sup>チョンノ</sup>鍾路の映画館・夜店・清溪川のセットがよくできており、日本人役の登場人物が日本語を話すことでも評判になった映画なので（それまでの映画では日本人役も韓国語を話していたとのこと）、学生たちが歴史に興味をもつきっかけになればと思ってあえて教材に用いた。

##### 6-2-2 用いた部分

この映画で教材に使う場所は、学生の意見を参考にして筆者が選んだ。ストーリー展開がめまぐるしくて場面がすぐに替わり、早口で泣いたり怒鳴ったりする場面が多く不穏当な言葉もあったりして選ぶのに苦慮したが、結局つぎの部分を選んだ。

- a. キファン兄貴に面会に行った金斗漢が、帰りにキャバレーの女性<sup>フアジャ</sup>花子に出会って寺詣でにつきあい、近くの料亭で結ばれるくだり
- b. 金斗漢の親分就任演説

- c. 学生やくざ新馬賊とトンフェの清溪川での話し合い
- d. 金斗漢と日本人丸岡の通訳付決闘
- e. トンフェの子供時代の回想
- f. 金斗漢が金佐鎮將軍の息子であることを新馬賊が彼に教える場面

#### 6-2-3 授業方法

「冬の旅人」のときと同じ方法でおこなった。やくざ映画なだけに俗語が頻出して苦労したが、専門外国語としてはこれくらいは仕方のないところであろう。シーンによっては台詞と台詞のあいだが長すぎたりして、教材としては少々使いづらかった。

#### 6-2-4 その他

この映画を教材にした時期、筆者が担当する2年次必修科目「朝鮮事情（文化）」で、植民地時代の知識人の苦悩を描いた<sup>ユジン</sup>俞鎮午の「T教授と金講師」（岩波文庫）を読み、当時の地図を見ながら清溪川を境にした朝鮮人と日本人の京城内での棲み分けの話をした。また、歴史志望の学生に金佐鎮と抗日闘争に関して調べる課題をあたえて発表してもらい、歴史・文化の面では興味深い授業ができた。

アトラクションとして、映画の中で学生やくざたちが酔って歩きながら高歌する「鳳仙花」（日本への抵抗歌として歌われた）を訳読し覚えた。酔っぱらいのだみ声では聴きとりにくかったので、映画「死の賛美」の中で張美姫扮する<sup>チャンミレ</sup>尹心憲<sup>ユンシムドク</sup>が総督府で日本総督をまえにして同じ歌を歌う（吹き替え）感動的な場面を使った。

#### 6-3 「<sup>ホンギルドン</sup>洪吉童」

##### 6-3-1 作 品

1986年制作 / 監督：キム・キリン / 原作：<sup>ホギョン</sup>許筠（シナリオは入手できなかった）  
出演：リ・ヨンホ バク・チュニ

17世紀に書かれた朝鮮最初のハングル小説を原作とした北朝鮮映画。両班の息子でありながら婢から生まれたために父を父とも呼べぬ境遇の主人公洪吉童が仙人から妖術をならって盗賊の首領となる。やがて海の向こうから来た盗賊団をやっつけ両班の娘である恋人を救うが、身分のために結婚を許されず、ともに国を出ていくというストーリーで、日本の忍者も登場するアクション時代劇である。

この映画は現代語とはひと味違う時代劇の言葉に接するために選んでみた。私たちは、たとえば「水戸黄門」やNHK大河ドラマのような時代劇を通して、不正確ながらも昔の言葉にある程度親しんでいる。そんな感覚で時代劇の言葉を学ばせる教材はないかと探したところ、韓国映画には適当なものがみあたらず、北朝鮮で制作されたこの映画の字幕付ビデオが市販されていたので使うことにした。



### 6-3-2 用いた部分

特に希望はとらず、幼い吉童が仙人の教えで修行しているいくつかの場面を使うことにした。時代劇の台詞は難しく、簡単な単文ばかりのこの部分がやりやすかったからである。

### 6-3-3 授業方法

授業方法はいままでと同じ。오이다/오이까/소이다/소이까 (ござります etc.) などに耳慣れる程度でよいと思い、この映画教材は2回で終えた。

### 6-3-4 その他

朝鮮王朝時代の両班制度と嫡庶差別、ハングル小説について簡単に説明し、原作者自身嫡子と庶子の差別に反対して陰謀に荷担し処刑されたことなどの話をした。時代劇映画はあまり見る機会がないので、学生たちには衣装や動作などが興味深いようだった。

## 6-4 「<sup>ソビョンジェ</sup>西便制」(日本語タイトル「風の丘を越えて」)

### 6-4-1 作品

1993年制作 / 監督：<sup>イムクオンテク</sup>林権沢 / 出演：<sup>オジョンヘ</sup>呉貞孩 <sup>キムミョンゴン</sup>金明坤 (脚本も)

原作：李清俊 シナリオ：韓国映画振興社編「韓国シナリオ全集第11巻」(集文堂1994)

全羅道地方の美しい風景を背景にパンソリが多く唱われる、韓国伝統文化の情緒あふれる映画である。パンソリ芸人ユボンは解放後西洋音楽におされて衰退するパンソリを唱いつづけ、義理の娘と息子ソンファとトンホに芸を伝える。トンホが修行に耐えきれずに家を出ると、ユボンはソンファを「<sup>ハン</sup>恨」をもった唱い手に育てるため漢方薬で失明させる。ユボンの死後、トンホはソンファを探し歩いてついに見つけど。だが二人は一夜唱い明かしたあと、名のりあわずに別れてゆく。

### 6-4-2 用いた部分

学生の希望でつぎの部分教材にきめた。

- トンホがソンファを探して全羅道の町々をさすらい、漢方薬店からソウルに電話をする場面
- ソンファが失明していき、沈清伝を唄いたいと言い出すまで
- ユボンがソンファにパンソリの極意を教える場面と死ぬ場面
- トンホがソンファを探し当て、ともに唱い明かすくだり

### 6-4-3 授業方法

先述したように韓国では映画がシナリオに必ずしも忠実でないことが多いが、この映画は俳優の金明坤が脚本を書き、かつ自身で演じているせいか、シナリオに非常に忠実に作られている。そこでこの教材を使った授業では、シナリオのコピーを配布して、講読の要素を取り入れることにした。

やり方は以下の通りである。

- ① シーンを映像で見せる。
- ② 学生にシナリオを訳読させる。
- ③ 難しい単語や文法事項について説明する。
- ④ 声を出して読ませる。
- ⑤ テキストを見せながら、つぎに見せずに、音声テープを聴かせる。
- ⑥ 最後にもう一度そのシーンを映像で見せる。

要するに伝統的な講読のやり方に映像をつけただけである。だが実際に授業に使ってみると、シナリオのト書き部分が意外に役に立つことがわかった。映画の情景や登場人物の動作をテキストで読んでから実際にそれを目にすると、学生たちにはわかりやすく記憶もしやすいらしい。一例をあげる。

(道を歩くソンファ、目をこすってユボンを追いかけてようとして足をふみはずす)

ユボン : (ふりかえって)「どうした？」

ソンファ : 「目がかすむの」

講読ならば脳裏に描くところを映像で見ると、内容と映像とがかさなりあって理解され記憶しやすいようだ。

また、たとえば情景の説明が「**낡은 초가**」(古い藁葺きの家)とあるとき、ふつうなら日本人の脳裏に浮かぶイメージは日本家屋になってしまうところ、映像で見ることによって「**초가**」という言葉の響きと藁葺きの韓屋が結びつくという効果がある。

学生たちからは、音声のみで聴きとる最初のやり方に比べてやりやすいという声が多く聞かれた。やはり講読方式に慣れてきているからだだろう。意味が分かったうえで音を聞く方式に安心感があるようであった。

ところで、この映画の台詞はシナリオに非常に忠実ではあるが、それでも演技していればまったく同じというわけにはいかないらしく、台詞のはしばしに小さな違いが出てくる。⑤の段階で、耳の訓練をするため、シナリオと実際の台詞との違いを探しだすことを課したところ、筆者よりも学生たちの方が耳がよく、実に小さな違いまで指摘するので驚いた。

#### 6-4-4 その他

全羅道地方が舞台になっているので、台詞に方言訛りがあるが、主要人物の発音はわかりやすい。そうした訛りをとらえて全羅方言の特徴を指摘した。

この映画はパンソリが下敷きになっており、とくに前半は「春香歌」後半は「沈清歌」が映画のストーリーと密接にかかわっている。そこで「朝鮮事情 (文化)」でパンソリについて学ぶ時期をこの映画を教材にする時期とあわせ、理解を深めるようにした。トンホがソンファと再会して唱うのは、「沈清歌」の中の、沈清が父のために海に飛び込む場面と父に再会する場面である。その部分も訳読したうえで鑑賞した。映画の感動とあいまってパンソリは学生たちの人気を博した。

## 7. 評 価

前期はいくつかのシーンを指定して完全暗記を課した口頭試験、後期は台詞の音声テープを聴いて書き取る筆記試験をおこなった。

## 8. アンケート

以上の4本の映画を教材として1997年度の授業は終了した。最後にアンケートをとったので集計結果を報告しておく。(設問内容と詳しい結果は注に入れておく)

### 8-1 映画を教材に用いることについて

まず映画を教材に用いたことに関しては、31名中9名が「とてもよかった」、19名が「よかった」、3名が「まあまあだった」と答えた。学習者全員が教材として映画を用いることを肯定的に評価したことになる。

文字教材と映画教材とではどちらが授業に集中できるかという質問に対しては3分の2以上の21名が、映画の方が集中できると答えた。ただし、この集中度にはLL教室でヘッドフォンを使う授業形態が影響している可能性がある。ちなみに講読の授業にもLL設備を使用してみたところ、緊張持続・発音矯正などに有効性を発揮した。

### 8-2 効果について

この授業が役にたったのはどんな点かという質問に対しては、25名が「聴解力がついた」と答え、授業目的が達成されたことを裏付けた。「韓国文化の理解」に役だったと答えた者は17名、「韓国社会の理解」に役だったと答えたものが6名で、31名中20名(複数回答可)が韓国の理解に役だったとしていることで、この授業の目的のひとつである異文化理解にも効果があったことが確かめられた。

### 8-3 授業方法について

聴解力養成中心におこなった前半と、講読形式を採り入れた後半の授業のやり方とではどちらがやりやすかったかという質問に対して、25名が後半の方がやりやすかったと答えているが、どちらが語学習得に効果的だったと思うかという質問に対しては15名が前半と答えた。調べてみると講読形式の方がやりやすいと答えた25名のうち約半数の12名が、語学の力がつくのは前の方式だったと答えている。音声と直接に対峙する授業は先に文字で意味を知った授業よりも集中力と緊張をしいられてつらいが、それだけに語学力がついたと感ずるのであろう。

### 8-4 教材映画について

教材とした4本の映画の中、作品としてはどれが一番よかったと思うかという質問には、「西便制」が18名でトップだった。だが語学教材として適当だと思える映画はどれかという質問には「冬の旅人」が15名「西便制」が16名だった。訛りのない「冬の旅人」の方が教

材としては適しているとわざわざ記入した学生もいた。

## 9. おわりに

本稿は、県立新潟女子短期大学の国際教養学科韓国語コース2年生31名を対象におこなった映画教材による語学授業（1997年度「上級韓国語Ⅱ」）の報告である。語学以外の科目ともリンクさせた特殊な例ではあるが、筆者がこのような授業を始めるにあたっては新潟大学における教養フランス語の授業例が非常に参考になっているので、逆にこうした特殊例が他の場所で参考になることもあるかもしれないと期待し、あえて報告をおこなった次第である。1年間のこころみの報告を終えるにあたり、いくつかの気づいた点を書き出してまとめにかえたい。

映画教材は、聴解力・会話理解力の養成および異文化理解の促進という面で効用のあることが確かめられた。とくに、欧米に関する情報ばかりに囲まれて育ち、地理的には近いアジアを心理的に遠い存在と感じている日本の学生たちにアジアを身近に感じさせて文化理解を深めさせるという点で、映画教材は非常な効用がある。これは語学とは一見関係がないようだが、学習モチベーションや言葉の理解の深化など、語学学習のうえで大きな意味をもつものである。

授業のやり方としては、今回おこなった他にさまざまな方式が考えられる。現在「사랑방 손님과 어머니（離れのお客とお母さん）」を1998年度の最初の教材として使っているが、学生にあらかじめキーワードと難しい単語を与えたうえで音声聴きとらせるという方法をとっている。このやり方だと聴きとりはぐっと楽になるが、まず音と対峙するという緊張感が薄れるようである。この他に、たとえばネイティブ教師の会話授業に教材映画に関する話題をとりいれてもらうとか、韓作文の授業の課題として、登場人物のつもりになって書く日記とか、登場人物の心理を分析する文章などを出してもらうなど、他の語学授業との連携が考えられる。また台詞を暗記させるさいに、学生をグループにわけて演じさせるのもいいだろう。これからもさまざまな形をためして、より効果的な方式を考えていきたい。

会話中心のシナリオをテキストにすることに抵抗がある場合は、ト書きを活用することで講読形式を取り入れ、書き言葉の学習を強化することができる。フランス語の映画教材教科書の中には書き言葉によるあらすじ挿入などの工夫をしているものもある。（大木1991）第2外国語の授業で映画を教材にする場合には、そうした工夫が必要となろう。

最後に教材えらびに関して一言つけくわえておく。教材映画をえらぶにあたって字幕付・なしの映画ビデオの入手問題よりも先にまず苦労したのは、教材にふさわしい映画を見つけ出すことであった。韓国映画はフランス映画にくらべて作品の数は圧倒的に少ないし率直に言って水準もそれほど高くない。そのうえ芸術的といわれる作品には内容が暗す

ざたり社会告発がはげしかったり、あるいは不適切なシーンがあったりして、語学教材に不向きなことが多いのである。しかし最近では若手の監督によって娯楽の要素を含んだ水準の高い作品が制作されるようになったので、そうした映画の字幕付ビデオ制作が待たれる。その点、このところパーフェクTVの普及によって字幕付映画の数が飛躍的に増大しているのは心強い現象である。

<参考文献>

大木充 (1990): 「ビデオを用いて『講読』の授業をもっと楽しくもっと効果的に——劇場用映画のシナリオを第二外国語科目『中級講読』用に編集する——」(大阪外国語大学「視聴覚外国語教育研究」第13号) / 大木充 (1991): 「映画のビデオを第二外国語の授業で用いるためのさまざまな工夫——授業にビデオを導入することの長所と短所——」(フランス語教育学会「フランス語教育19」) / 立花英裕 (1992): 「映画利用のフランス語授業」(獨協大学外国語教育研究所「第6回フランス語教授法研究会報告」) / 白井春人 (1997): 「映画を用いたフランス語教材の可能性について」(獨協大学外国語教育研究所「第11回フランス語教授法研究会報告」) / 松尾良樹 (1998): 「語学教材としてのフランス映画」(奈良女子大文学部言語文化学科『映像と文学』) 野間 (1997): 「日本の大学における朝鮮語教育とコンピュータ」(コンピュータ&エデュケーション Vol. 3.)

## 上級韓国語Ⅱに関するアンケート

(回答者31名)

- (1) 映画を教材に使った授業の感想を教えてください。

・とてもよかった	9	・よかった	19
・まあまあだった	3	・あまりよくなかった	0
・わなかった	0		

- (2) この授業は次の点で役だったと思いますか？○をつけてください。(複数可)

・聴解力 (ヒヤリング)	25	・文章読みとり能力	11
・語彙能力	7	・韓国文化への理解	17
・韓国社会への理解	6		

・その他に役立ったと思われる点がありましたら書いて下さい。

＜会話の感触をつかめた。／韓国への興味をさらに誘われた。／映画の内容がくわしく理解できた。／教科書にはないような訛りや口語を学べた。／暗記力がついた。／会話に応用できるセンテンスを覚えられた。／方言と会話が学べた。／話し言葉の語調がわかるようになった。／恋愛ものなど感情移入できて興味がもてやりやすかった。  
etc. ＞

- (3) この授業は前半と後半でやり方を少し変えました。

前半：直接音声テープから音をとって訳した。

後半：シナリオを読んで訳してから音声テープを聞いた。

A どちらの方法がやりやすかったですか？ 前半 6 後半 25

B どちらの方法が語学習得には効果的だと思いますか？ 前半 15 後半 16

- (4) 文字で書かれたテキストを教材にするのとどちらが集中できますか？

映画 21 文字テキスト 10

- (5) 語学教材としてはどの映画が一番適当だとおもいますか？

「冬の旅人」 15 「将軍の息子」 0 「洪吉童」 0 「西便制」 16

- (6) 映画としては、上の中でどの作品が一番良かったですか？

「冬の旅人」 7 「将軍の息子」 2 「洪吉童」 4 「西便制」 18

- (7) 前回の口頭試験と今回の筆記試験とでは、どちらが自分の力を正しく評価してもらえ
- 
- ると思いますか？

前回 13 今回 18